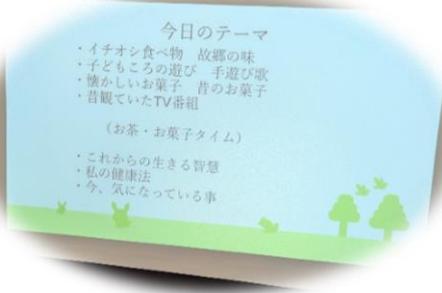




例年なら梅雨空が広がる7月2日ですが、今年は様子が違います。強い日射しがシニアの足を止めたのか少な目の参加者となりましたが、第116回「ほほえみ交流カフェ」が10周年記念の会として開かれました。

シニア：14名、スタッフ：8名、葛が谷薬局さん：2名
計24名

10周年の今回はいつもと趣向を変え、参加者の皆さんがグループに分かれて自由に話題を盛り上げるフリートーク形式でスタート。まずはどのテーブルにつくか、誰と同席するかをくじ引きです。



とは言っても話のきっかけを見つけるヒントとして、主催者側で「お題」をいくつか用意して、その中から自由にテーマを選んでもらう形としました。果たして話が弾むか少し心配していましたが、なんの何の、どのテーブルも皆さんの賑やかな声が弾みます。

筆者も一つのテーブルに参加しましたので、他のテーブルがどんな話で盛り上がったのかわかる術もありませんでしたが、あとで聞いたところ、用意されたテーマから次から次へと話題が繋がり、普段は無口な方も会話に加わることが出来たようです。



因みに筆者のテーブルでは、出身地の懐かしい食べ物からスタート。

地元出身者からは「崎陽軒のシューマイ」です。なんと崎陽軒はその方のご一族が創業されたそうです。



ホタテの旨味が効いた横浜を代表する食べ物ですね。 駅弁の定番ですが、今は



長距離電車の窓も開かず、駅弁売りの掛け声は遠い記憶となりました。駅弁と言えばお茶。葛が谷薬局の若い実習生さんは、プラ容器入りのお茶をご存じありません。揺れる車内で、小さな蓋にお茶を注いでこぼさない様に啜って飲んだ

ものです。横浜発祥の食べ物はほかにも沢山あります。ナポリタン、アイスクリーム、サンマーメン……





実習生さんの最近のお気に入りにはレトロ調の喫茶店でクリームソーダだそうです。



山形出身の方からは、冬に「かまくら」の中で焼く餅の思い出から始まり、道路でもそり遊び、滑り下駄。・・・

参加者からはとても楽しい企画だったと大好評でした。今後も時折やることになりそうです。



続いては、これも新企画として、参加者の「一品」紹介です。第1回は、田辺さんが長年趣味として続けておられる「絵」をご披露いた



だきました。40代のころから30年間指導を受けた先生から学んだものは単なる絵の技法だけではなく、人の生き方だった。決して他の人を批評しない。自分の世界をもつことの大切さ。人の本当の実力とは人柄などなど。お持ちいただいた10枚ほどの絵にまつわる思い出を交えながらのお話でした。それにしても線画から点描、油絵からクレヨン、色鉛筆まで、同じ素材でもこれほど印象が異なるのかと驚きます。絵のお陰で「自分はまだまだ伸びしろがある」と思えると。田辺さん有難うございました。この企画もシリーズ化できればと考えています。皆さんの「一品」をぜひご紹介ください。



お次は、歌川さんのリードで身体を動かします。「絵を描くには手を動かさねば」ということで、手と指の運動からス

タート。肩回りは後ろから前回し、反対回し、上体側のストレッチなどで身体をほぐしました。有難うございました。

最後はいつもの「ふれあい丘の街」を合唱。 お祝いの紅白饅頭を手にして笑顔で会場を後にしました。

次回は8月6日（火）ゲストは横浜新都市脳神経外科の初期対応チームさんです。